

5. やさしい育成技術

1歳馬の馴致と人材養成 ～ 馴致 ～

軽種馬育成調教センター 技術普及課 齋藤 昭浩

前号において、当センターで行っている研修では牧場の即戦力となる人材の養成を目指していると述べましたが、騎乗馴致作業の技術は1年間1シーズンの経験で簡単に習得できるものではありません。しかし、馴致の手順と使用する馬具の目的と効果を詳細に知ることによって、未経験者でも技術習得の時間短縮につながると考えています。

今回は「馴致」について紹介いたします。注意点等は前号「馴致前の手入れ」と同様ですので併せてご覧下さい。

実施前の準備

研修では馴致を進めるにあたり、研修生(未経験者)に学科で理論的な点を説明し、調教済みの馬で実技を行い確実に次頁表の作業が行えるようになってから新馬を用いた馴致を開始します。馴致が始まる前の実技で研修生は、初めて使用する馬具の装着順序や安全のための確認事項を忘れることが多く、これが新馬の1歳馬であったらケガをしているかも知れないと言った場面に遭遇することがあります。指導者はその一つ一つを見逃さずに指摘して、調教済みの馬においても未経験者が一つの間違いもなく正確に実施できるように注意しなければなりません。また、馴致を行う馬は前号で紹介した「馴致前の手入れ」を終了させておきます。

目的

馴致の目的は「ハミや鞍の装着に馴らして人が騎乗しコントロールできるようにするための作業」と思われがちです。しかし実際は、馴致が「ブレーキング」と呼ばれているように、馬をブレイクする作業、すなわち馬の頭の中(心理面)を壊し人が利用するために都合の良いように作り替える作業なのです。「ブレーキング」とは決して止めたり制御する意味ではありません。ドライビングにより口向きを作ることは重要な事です。しかし、それ以上に馬がハミを受け入れる事や、人が騎乗しても苦痛ではないと思わせる事の方が重要だと考えます。馴致はトレーニングより躡しつけを重視します。

手順と方法

手順と方法を次頁表に示しました。馴致を安全かつ確実にを行うために作業は必ず2人一組で行いますが、必ず1人は熟練した経験者で無ければなりません。表に示した方法の一つ一つは更に詳細に作業手順を決めています。また、馬の性格や気質に応じて実施者2人は密な打ち合わせし作業を進めます。作業は確実かつ敏速に行うことが最低条件で失敗は許されません。そのため研修生には失敗したときの対処方法を教えるよりも確実に実施することを教えることが重要です。しかし、実際には全てが順調に実施できる訳ではなく馬によっては困難となる場合が生じてきます。そこで馴致を行う際のポイントになる作業については研修生(未経験者)と行うのではなく熟練した経験者2人で行うことが重要です。

重要となるポイント

初日のロンジング作業

3日目のドライビング用具一式装着作業

4日目のドライビング作業

6日目の騎乗馴致

期間

この手順により馴致を行う場合は2週間程度で他の馬と一緒に集団調教することとなりますが、あらゆる要因により期間が延びることも考えられます。馴致進度のペース判断を誤ると立て直しに余計時間を取られることで一緒に調教する予定の他馬の調教ペースも狂うこととなり、労力的にも経済的にも大きなデメリットとなります。実施期間の判断は馬の様子をよく観察して熟練した経験者が決定しなければなりません。例えば牝馬や馬体重の軽い馬の場合は毎日の調教を短時間でいき極力体重の軽減を避けるなど個々の馬にあったペース設定が必要です。

おわりに

簡単に馴致方法の概要を説明いたしましたが、最も大切なのは安全に行うことで、そのためには確実に作業を実施する必要があります。時間の制約があると思いますが確実に作業を行うことにより後々の時間短縮にもつながっていくと考えています。

馴致作業を通じて人と馬の良い信頼関係が築かれることを期待します。

なお、馴致作業手順の詳細を希望の方はお問い合わせ下さい。

表 馴致の手順と方法

日付 手順	実施項目	使用馬具
1	ロンジング 基本的に常歩・速歩で実施。 両手前で10分程度。	ロンジング用馬具(無口、馴致用ハミ、カップラン、レッグプロテクター、オーバーリーチブーツ、ロングレイン(調馬索)、追い鞭)。
2	ロンジング 基本的に常歩・速歩で実施。 両手前で10～15分程度 終了後馬房内で3日目に使用するブレーキング用馬具の長さの調節を行う。(ローラーは締めない)	馴致用ハミは頭絡に付けて、無口の上から装着。
3	ロンジング 基本的に常歩・速歩で実施。 両手前で10分程度。 ブレーキング用馬具装着後再びロンジングを行う。(馬が落ち着くまで) 終了後馬房内に入れ30分間ほど馬具をつけたままにしておく。	ロンジング用馬具+ドライビング用馬具(ローラー、鞍下パッド、サイドレーン、スタンディングマルタンガール、胸ガイ) (図1)
4	ロンジング・ドライビング 前日大人しかった馬は馬房内で馬装 ロンジング約10分後、2本の調馬索を使用して10～15分ロンジングを行う。(調馬索による手前変換を行う。) 円馬場内で補助者が馬を曳きながらドライビング 大人しければ外に出てドライビング(図2) 終了後馬房内に入れ30分間ほど馬具をつけたままにしておく。	
5	ロンジング・ドライビング 前日大人しかった馬は馬房からドライビングで円馬場へ向かう。 両手前で10～15分間ロンジングを行う。 ロンジング後は外に出てドライビングを行う。	ロンジング用馬具ドライビング用馬具+調馬索1本,曳き手。
6	ロンジング・ドライビング・騎乗準備 ロンジング、ドライビング終了後、馬房内又は円馬場内で騎乗準備を行う。作業は絶えず声をかけ、パッティングを行いながら進めていく。 ローラーに軽く体重を掛け馬の横でジャンプ。 可能なら補助者に足を上げてもらい横乗りを行う。 大人しければ横乗りの状態で馬を小さく回し歩かせる。	
7	ロンジング・ドライビング・騎乗準備 横乗りで歩かせる時間を長くし、大人しければ右膝を馬の背にかけた状態で歩かせる。その時上体は低くしておく(図3)。	
8 . 9 . 10	ロンジング・ドライビング・騎乗準備 前日と同様の作業後に人は完全にまたがりゆっくり上体を起こす。起こした状態で馬を曳いて歩かせる。 可能であれば曳き馬で騎乗したまま厩舎・円馬場周辺を歩かせる。	ローラーの代わりに鞍を装着。 両方の鐙は、紐で動かないように固定する。 サイドレーンに代えて手綱とアイリッシュマルタンを付ける。 騎乗時以外は手綱をキ甲部で交差させ鐙の根本にかけてサイドレーンの代用とする(図4)。
11	ロンジング・ドライビング・騎乗準備 円馬場内でロンジング後、横乗り、騎乗を行い、よければ常歩・速歩を行う。	騎乗での運動が安定してきたら、騎乗者の判断でブレーキングビットから一般に使用されるハミに移行する。スタンディングマルタンからランニングマルタンへの移行も同様に行う。
12	ロンジング・ドライビング・騎乗準備 円馬場内でロンジング後、横乗り、騎乗を行い、よければ常歩・速歩・駈歩まで行う。	
13	ロンジング・ドライビング・騎乗準備 リードホースとともに円馬場、角馬場等で騎乗する。	



図1 ドライビング用馬具を装着した状態



図2 ドライビング



図3 膝を馬の背にかけた状態



図4 鞍と手綱でのドライビング馬装